

[横浜美術館]

令和4年度業務報告及び収支決算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※文中の事業欄において、

●：主催事業 ○：共催事業
を示します。

※文中の達成指標欄において、

□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m ² ・26,829 m ²
開館日	平成元年11月3日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

3 基本方針

(1) 基本的な方針の総括

令和4年度は、第3期指定管理期間（令和5年度～14年度）の核となる「みなとモデル」（「多様性」「持続可能な活動」「健全な経営」）を念頭に、大規模改修工事後の活動再開に向けた方針の策定や、事業、運営体制の検討に取り組みました。

●休館中の事業等

特色あるものとして次があげられます。

- ・展示：当館コレクションによる展覧会を郡山市立美術館で開催したほか、工事用仮囲いを利用した若手アーティストの展示を実施しました。
- ・コレクション：市内企業の寄付による作品購入の実現に向け、調整を進めました。また、外部倉庫における作品管理を十全に行うとともに、インターネット上の作品画像、データ（日英）、解説（日英）の公開を拡充しました。
- ・教育普及事業：昨年度に引き続き、仮拠点であるPLOT48内、および市内18区においてレクチャーやワークショップを実施しました。また学校連携、企業連携等も積極的に行いました。

●改修後に向けた検討

特色あるものとして次があげられます。

- ・無料エリアである「はとばエリア（仮称、以下同）」の空間構成を行う「全体デザインプロジェクト」や、「ショップ・カフェ リニューアルプロジェクト」、「ウェブサイト リニューアルプロジェクト」等を推進し、設計者、事業者を選定して計画を具体化しました。
- ・第8回横浜トリエンナーレにつき、アーティスティック・ディレクター（AD）を選出し、開催準備を進めました。

なお、休館中の事業や改修後に向けた検討の一部は、令和2から6年度の5年にわたって横浜市等と協働する、文化庁「横浜美術館における文化観光拠点計画」に位置付けられています。

(2) 令和4年度の業務の方針及び達成目標の総括

現在は休館中のため、「休館中の事業等」と「改修後に向けた検討」に大別して総括します。

■休館中の事業等

1 経営

(1) 横浜トリエンナーレ

—

(2) 海外との連携

—

(3) 広報

休館中ならではの活動である「横浜〔出前〕美術館」「やどかりプログラム」を当館のウェブサイトで告知するとともに、各種 SNS を駆使して館の魅力を発信しました。

- ・リニューアル後の理念をつたえる「ミュージアム・メッセージ」（日英）の制作、リニューアルロゴを開発しました。
- ・改修工事期間ならではの事業「New Artist Picks: Wall Project」の魅力をわかりやすく発信しました。
- ・改修工事中の仮囲いを活用し、「みんなと、いろいろ、みなといろ」と題し、一般参加型のプロジェクトを実施しました。
- ・横浜市内 18 区の文化施設等で行う活動を「横浜〔出前〕美術館」、仮拠点 PLOT48 で行う活動を「やどかりプログラム」と名付け、特設サイトを開設するなど、お客様から見えにくくなる休館中の事業をわかりやすく発信しました。
- ・昨年度に引き続き、Twitter、note 等の SNS を活用して、「職員インタビュー」「休館中日記」などのコンテンツを製作し、休館中の様子を紹介しました。また、「今月の 1 点」「横浜美術館クイズ」などを通して、当館の魅力とコレクション作品の魅力をわかりやすく発信しました。
- ・神奈川新聞で、当館コレクションをテーマにした連載「アート彩時記」を継続し（令和5年1月まで／計 13 回）、それぞれの筆者（学芸員）の専門性や個性を活かしながら作品を紹介しました。

(4) 外部との連携

近隣の企業と連携し、コレクションの普及に資する事業に取り組むとともに、近隣団体の要望に応じて当館が独自に企画したワークショップなどを実施しました。

- ・近隣企業との連携事業の一環として、野村総合研究所のエンジニアチームと当館内グループ横断の職員によるコレクション鑑賞アプリの共同開発を昨年度に引き続き実施しました。(令和5年4月にウェブサイト上で公開の予定です)。
- ・キヤノン・マーケティングジャパンと博報堂が企画実施する、高精細映像を駆使した新しいアート鑑賞番組(オンラインでのライブ配信)に協力館として参加しました。(3月)
- ・近隣企業との連携の一環として、MMパークビル管理会社からの要請に基づき、エントランスロビーにおいて当館の映像コレクションから1作品、およびコレクション映像コンテンツ「じっくりみる この一点」から2番組を投影するプロジェクトに取り組みました。(令和4年8月から令和5年3月まで常時上映。監修料有り、継続決定)
- ・近隣団体からの要望に応え、渉外と教育普及グループが共同で企画したビジネスパーソン向け体験型ワークショップ「アイマスクで粘土造形―遮断される感覚、拓かれる感覚」を一部有償で外部展開しました。

2 事業

事業①

(1) 企画展

—

(2) New Artist Picks

昨年度に引き続き、美術館仮囲いを使った「New Artist Picks: Wall Project」を実施し、当館が掲げる「新進作家の紹介」の機会を確保しました。

- ・[第1弾] New Artist Picks: Wall Project「村上早 | Stray Child」
(会期: 令和4年3月12日～11月6日)
- ・[第2弾] New Artist Picks: Wall Project「浦川大志 | 掲示: 智能手机ヨリ横浜仮囲之図」
(会期: 令和4年11月14日～令和5年5月31日 [予定])

事業②

(1) コレクション

コレクションに関する3つの活動(ア 収集 イ 保存 ウ 活用)について継続的に取り組み、リニューアル後を見据えたコレクションの充実と発信力向上に努めました。

ア 収集

- ・作家、作品の調査、所蔵者との交渉等の日々の活動の蓄積を経て、400点を超える本年度の収集候補作品を取りまとめて市に提案し、10月に開催した美術品および資料収集内部検討委員会において承認されました。
- ・市内企業からの美術作品収集に対する寄付の申し入れに対して、実現に向けて市及び企業側と調整に努めました。

イ 保存

- ・外部倉庫での作品の管理については、月1回の倉庫内点検を含め、適切におこなっています。
- ・外部倉庫への作品搬出に際する点検において今後修復が望ましいと判断された作品群について、改修後の作品移送・蔵置・展示に向け、優先順位をつけて処置にあたっています。【提案書「事業目標1」】

ウ 活用

- ・コレクション画像については、本年度末までに、令和3年度の新収蔵品を含めた約1万1千点の作品画像がウェブサイト上で公開され、当館のほとんどのコレクションの画像をどこからでも閲覧できる環境が整備されました。【文化庁文化観光拠点計画】
- ・コレクションの基礎情報については、日英両語でのデータの収集・整備・表記統一作業を継続し、ウェブサイト上の情報更新を随時おこなっています。【文化庁文化観光拠点計画】
- ・コレクションの作品解説については、簡明な文体と平易な表現により幅広い世代の方々が親しみやすいものとするを共通認識として、年間を通じて学芸員全員で執筆作業を進め、そのうち英訳の完了した250点を超える解説をウェブサイト上で公開しました。【文化庁文化観光拠点計画】
- ・「令和3年度 横浜美術館収蔵品目録」を3月に発行しました。
- ・コレクションの貸出については、休館中は原則として停止していますが、借用依頼のあった案件をその都度検討し、その展覧会への出品の意義の有無、貸出作業の困難さやリスクなどの諸要件に照らして、貸出が望ましいと判断された案件については適宜貸出しをおこないました。
- ・コレクションの貸出の一環として、郡山市立美術館において、当館の日本画コレクションによる展覧会「横浜美術館所蔵 日本美術院の作家たち展」を開催し（会期：令和4年4月23日から6月5日、入場者数：5,100人）、これまで横浜美術館に足を運んだことのなかった方々を含む多くの方に、当館の充実したコレクションを鑑賞する機会を提供しました。
- ・「やどかりプログラム」においては、コレクションを活用したシリーズ講座やボランティアによるトーク講座を実施するとともに、造形講座でもコレクションに用いられている技法やテーマに注目したプログラムを実地開催しました。【事業③（1）教育プログラム [鑑賞教育]、[造形教育]、（3）市民協働：ボランティア等に詳細を記載】
- ・「オンライン発信！プロジェクト」では、コレクションを紹介する映像シリーズ「じっくりみる この一点」を5点、「どんな技法？」2点を新たに制作しました。【事業③（1）教育プログラム [造形教育] に詳細を記載】
- ・MMパークビルにおける壁面投影プロジェクトに、映像コレクション1作品、および「じっくりみる この一点」2番組を提供しました。【1経営（4）外部との連携参照】
- ・鑑賞アプリ「みるみるアート」の第2弾を野村総合研究所と共同開発しました。【1経営（4）外部との連携参照】
- ・キヤノン・マーケティングジャパンと博報堂によるアート鑑賞番組（オンラインでのライブ配信）に参加し、コレクション2作品を高精度映像と学芸員による解説付きで紹介しました。（3月）【1経営（4）外部との連携 参照】

(2) 美術情報センター

蔵書の出納や新規購入により休館中の調査研究活動をバックアップするとともに、市民が図書資料を簡便に、より高い精度で検索できる環境整備を進めています。

- ・外部倉庫に保管中の蔵書について、作品解説執筆や展覧会企画等において必要な図書資料の出納作業を毎週実施しています。
- ・書誌データの整備を継続的におこない、ウェブサイト上の情報を随時更新しています。
- ・高い機能性と豊富なデータ容量をもつ新しい図書検索システムへの移行を実施しました。

(3) 調査・研究

職員がそれぞれの専門性に基づいた調査研究活動に継続的に取り組み、紀要、作品解説、収蔵品や蔵書のデータ更新、改修工事に関わる諸課題の検討、休館中およびリニューアル後の事業の企画立案など、多様な館活動においてその調査研究の成果を反映・発信しています。

- ・研究紀要については、第24号（論文4本所収）を3月に発行し、あわせてウェブサイト上にも公開しました。

事業③

一般向け、教員および指導者向け講座などを「横浜〔出前〕美術館」「やどかりプログラム」として実施するとともに、オンラインコンテンツやアーカイブの充実につとめました。

(1) 教育プログラム：鑑賞教育

- ・一般に向けた講座として、ボランティアによるコレクションをテーマにしたアートウォークをオンラインで実施しました。【文化庁文化観光拠点計画】【事業③（3）市民協働：ボランティア等に詳細を記載】
- ・コレクションを活用したシリーズ講座「横浜美術館コレクションを深掘りする」では、写真や能楽などのテーマを立てたり、丹下健三と横浜美術館の建築について理解を深めたりするなど、様々な視点からコレクションの魅力を再発掘しました。【事業②（1）コレクション ウ活用 参照】
- ・教員向けに「横浜美術館コレクションと学校をつなぐ鑑賞会」を開催するとともに、横浜市芸術文化教育プラットフォームの一環として小中高の「教師のためのワークショップ」を実施し、教育委員会や学校との連携を継続しました。

(2) 教育プログラム：子どものアトリエ・市民のアトリエ

- ・個人に向けた講座を対面および一部オンラインを活用して開催しました。感染対策を講じながら、アーティストや専門家とともに取り組むプログラムや、生活の中にある身近な素材を活用した創作などに取り組みました。
- ・「五感で学ぶ焚美学」では、火口（ほくち）作りや「メタルマッチ」を使った基本的な火のおこしかたを学び、人間と火の関係、ひいては美術とのつながりを考えました。
- ・コレクションより、安田鞞彦（やすだ・ゆきひこ）の「紅花青花」を参考に、学校の図画工作美術科教育では触れる機会が少ない日本画の画材を用いて描く講座を開催しました。【事業②（1）コレクション ウ活用 参照】
- ・幼児、初等、養護教育に携わっている指導者向けに、子どもの造形活動とそこにおける教師の役割を考える「教師のためのワークショップ」を開催しました。

- ・ホームページ内のプログラム「オンラインで楽しむ！エデュケーション・チャンネル」のうち、解説やナレーションをあえて加えず、映像のみでコレクションを紹介するシリーズ「じっくりみる この一点」につき、新たに5作品を公開しました。細部のクローズアップなど、さまざまな角度からとらえた映像により、じっくり作品と向き合うことができます。また、この映像を、MM パークビルエントランスロビーへの壁面投影プロジェクトに提供しました。【1経営(4)外部との連携、事業②(1)コレクション ウ活用 参照】
- ・同じく「オンラインで楽しむ！エデュケーション・チャンネル」内に、コレクションに用いられる技法を造形エデュケーターの実演により紹介するシリーズ「どんな技法？」の日本画編2点を公開しました。
- ・子どものアトリエ、市民のアトリエの30年にわたる造形活動の記録や、展示企画、アーティストとの取組みを収めた貴重な映像や資料の整理・デジタル化に取り組みました。

(3) 市民協働：ボランティア等

- ・47人のボランティアが活動しました。

「横浜美術館コレクションと歩く ヨコハマ・アートウォーク」では、作品をじっくり観察した上で、描かれた当時や現在の街の写真と見比べることで、時を超えても変わらない街の魅力や変化する時代の息吹が感じられるような3つのコースを、また、「横浜美術館コレクションでめぐる物語の世界」では、物語を主題にした作品の、物語と作品それぞれの背景を紐解きながら、これら2つをつないだ世界を旅するプランをつくり、ボランティア自身が語り手となって、発表しました。

また、「横浜美術館建築のヒミツ」として、Twitterで、美術館の建物や設計者・丹下健三のヒミツを発信する連載企画を実施し、noteにもまとめました。[文化庁文化観光拠点計画]

(4) 市民協働：コレクション・フレンズ

「改修後に向けた検討」に集約記載

(5) 市民協働：各種社会貢献事業

- ・福祉施設、特別支援学校を含む教育施設、病院、高齢者施設などへのアウトリーチおよび、みどりアップ事業については、コロナ禍のなか当該施設等との協議を踏まえて実施を見送りましたが、with コロナの流れのなか、3月末に若者支援施設と横浜市西部療育センターへのアウトリーチを実施しました。
- ・若者の自立を支援する福祉施設へのアウトリーチは、鎌倉女子大学学術研究所と連携して振返りのシンポジウムを開催し、同時にオンラインの配信もおこないました。また、過去の事業を総括するため、『若者支援プログラムを解体し、創造する：9年間のあゆみとこれから』と題した冊子をまとめました。
- ・高齢者施設へのアウトリーチはコロナ禍で施設への訪問を控えることになりました。連携している横浜国立大学教育学部と協議し、車椅子ユーザーであるアーティストの檜皮一彦氏を招き、大学キャンパスで学生とともに車椅子を運ぶグループワークをおこなうとともに、「やどかりプログラム」としての学生自身向けと一般向けのワークをおこないました。車椅子を運搬する過程で得られる感覚やコミュニケーションの新たな回路の発見など、障がいの本質について深く考え、多くの気づきを得る機会となりました。

- ・市内 18 区における文化施設（財団所管施設を含む）へのアウトリーチは、館内グループ横断の「横浜〔出前〕美術館実行委員会」を前年度から始動させ、コレクションに関するトーク、作家によるトーク、子どもあるいは一般向けのワークショップ等を、9 区（都筑区、旭区、南区、港南区、保土ヶ谷区、神奈川区、港北区、泉区、中区）で実施しました。なかでも、横浜市歴史博物館や慶應義塾大学（日吉キャンパス）など専門施設との共催は、共催団体からも好評を得て、今後の連携の糸口となりました。
- ・横浜市芸術文化教育プラットフォームの一環として、小学校（1 校）および中学校（3 校）でプログラムを実施しました。中学 3 年生を対象としたプログラムでは、アーティストの千葉大二郎さんを迎え、『「衝撃」から生まれる表現』と題して、アーティストの表現に直に触れ、表現やアーティストが自分たちの生活から遠く離れたものではなく生きていく上でのヒントになることを知るとともに、卒業後も主体的に美術鑑賞をしていくきっかけをつくることをめざすプログラムを実施しました。
- ・アーティストズ美術館（公益財団法人石橋財団）コレクション展特集コーナー「ピカソとミロの版画」において、市民のアトリエの専門的な版画道具と刷り見本の貸出、また展示パネルや小冊子の技法解説に掲載する実演画像の撮影に造形エドゥケーターが協力しました。

3 施設の運営事業

施設運営①

（1）来館者サービスの充実

- ・「全体デザインプロジェクト」等で、再開館後の来館者サービスのあり方について、ハード、ソフトの両面で検討しました。

（2）ショップやカフェの付加価値の向上

- ・休館中においてもオンラインショップを継続的に運営しました。

施設運営②

（1）適正な施設管理

- ・大規模改修工事については、工事内容を含め、リニューアルオープンのスケジュール、初度調弁等を、継続的に市と調整しました。

（2）経営基盤の強化

- ・9 月と 1 月に仮決算を実施し、予算執行と事業の進捗を管理し、次年度の組織体制について、強化の観点から検討しました。
- ・近隣の企業や団体の要請をうけ、ワークショップなどの事業の実施やプロジェクトへの参画を通して関係構築と強化に取り組みました。【1 経営（4）外部との連携に詳細を記載】

（3）人材強化

- ・専門人材研修を内部で 2 回実施するとともに、学芸員やエドゥケーター対象の外部研修に職員を派遣し、人材育成に努めました。

4 その他：政策協働

市と協議しながら、業務を遂行しました。

5 組織

計画通り進捗しました。

6 留意事項

計画通り進捗しました。

7 収支計画

- ・令和4年度予算の一部の経費（移転費）は、要望を下回る予算計上となりました。また、年度途中には物価高騰の影響による光熱水費増が見込まれる状況となりました。
- ・このような状況に対応すべく、文化庁補助金を最大限活用したほか、仮事務所における施設管理費を削減するなどの努力を行った結果、当初想定していた事業を縮小・廃止することなく実施できる収支を実現することができました。

■改修後に向けた検討

1 経営

(1) 横浜トリエンナーレ

第8回横浜トリエンナーレの準備に本格的に取り組みはじめる1年となりました。

- ・令和4年度に選出されたアーティスティック・ディレクター（AD）のリウ・ディン氏、キャロル・インホワ・ルー氏と横浜トリエンナーレ組織委員会との間で4月に契約を締結し、開催準備をはじめました。しかし年度途中での会期の変更に伴い、スケジュールを見直したうえで進めることになりました。

【6月】AD決定のプレスリリースを配信。あわせて会期・会場について情報を公開しました。

【12月】当初発表していた会期[2023年12月9日（土）～2024年3月10日（日）]を変更し、新しい会期[2024年3月15日（金）～6月9日（日）]について情報を公開しました。

- ・会場視察、出品作家調査、打合せ等を目的とするAD両氏の来日については、中国の「ゼロコロナ政策」による制約を踏まえ、ルー氏とリウ氏を個別に招へいし、次のとおり進めました。

【9月】ルー氏が来日。滞在中は、展覧会のための調査のみならず、これまでの活動紹介と第8回展に対する期待などについて全職員向けに話す機会を設けました。

【11月】リウ氏が来日。展覧会について担当学芸職員と内容を詰める作業をおこないました。

【3月】ルー氏とリウ氏揃って来日。会期変更に伴うマイルストーン変更の確認および変更契約の締結をおこないました。また、会場の視察および候補作家との面談などを実施しました。

- ・海外の国際展の動向を把握するため、ドクメンタ（6月）、ベルリン・ビエンナーレ（6月）、イスタンブール・ビエンナーレ（9月）、リヨン・ビエンナーレ（9月）、ヴェネチア・ビエンナーレ（9月）、シャルジャ・ビエンナーレ（2月）、コチ・ビエンナーレ（2月）、シンガポール・ビエンナーレ（2月）などの調査を実施し、現地でのヒアリングなどを通してコロナ禍やウクライナ侵攻後の各国の状況を確認することができました。

(2) 海外との連携

ポスト・コロナ／ウィズ・コロナおよびロシアによるウクライナ侵攻という世界情勢のなかで海

外との連携を継続していく方法を探るため、美術館実務者が集まる国際会議に出席し、各地の状況と新しい動向を確認しました。

・展覧会巡回担当実務者会議（IEO=International Exhibition Organizers、5月／オンライン）に出席し、各館の輸送費の高騰や地球温暖化対策への取組など、最新の動向を知ると同時に作品の貸出や展覧会の海外巡回の際の注意点や検討課題を把握したほか、アジア地域の美術館担当者と具体的な事例を参照しながら意見交換しました。

・現代美術のコレクションを持つ美術館のネットワーク会議（CIMAM=International Committee for Museums and Collections of Modern Art）の年次会議（11月／スペイン／ハイブリッド）に参加し、美術館組織の統治をはじめ、今後制度上見直していくべき課題について学ぶことができました。

・国際展ネットワーク会議（IBA=International Biennial Association、10月／コソボ）に出席し、紛争の時代に、国の単位を超えた国際展ネットワークを介して連携・連帯する方法について議論しました。

以上のとおり、世界の動向を調査した結果、輸送費の高騰、地球温暖化への視点、サステイナブルな体制が共通の課題であり、今後は企画内容のみならず、組織や運営のプロトコルもあわせながら、巡回を検討する必要があることがわかりました。

この点を踏まえ、次のとおり、今後の計画を立案しました。

【R 5】

4月～11月 巡回展にかかわる近年の動向調査（4月 IEO 会議、11月 CIMAM 会議）

企画展調整会議、コレクション展調整会議開催

12月～3月 R 6～7の美術館のコレクション展／企画展ラインアップのなかから海外巡回、作品の大型貸出の可能性がある場合は、巡回先候補／貸出先候補の調査

【R 6】 R 8以降のコレクション展／企画展で海外巡回、作品の大型貸出の有無を検討

【R 7】 R 9以降のコレクション展／企画展で海外巡回、作品の大型貸出の有無を検討

（3）広報

・企画展・コレクション・教育普及などの発信力の強化を目指し、中期的見通しを持った単年度計画を立案しました。

・昨年度策定した「改修後のウェブサイトの方針」に基づいたウェブサイトのリニューアルを行うため、公募型プロポーザル方式による委託事業者の選定をおこないました。【文化庁文化観光拠点計画】

・館内全スタッフと協議を重ね、基本デザイン（日英）、ディレクトマップ（日英）を完成させました。

・ネイティブライターを含むコンテンツ制作チームを編成し、外国人観光客を魅了するコンテンツ（日英）を制作しました。

（4）外部との連携

・昨年度策定した「外部連携の改修後の基本方針」に基づき、従来おこなってきたコレクション・フレンズのあり方等の見直しに着手しました。

- ・芸術・美術のビジネスにおける効果に対する近隣企業等の関心を喚起するため、改修後にどのような展開を図るべきか検討しました。

2 事業

事業①

(1) 企画展

昨年度に検討を重ねたリニューアル後の展覧会編成方針、展示スペースのゾーニングと動線計画にもとづき、令和6・7年度の展覧会の編成について具体的な検討を進めました。

- ・企画展については、6月に2回にわたり開催した展覧会検討会議により令和6・7年度の企画案を絞り込み、実現に向けてそれぞれ具体的な調整をおこないました。
- ・コレクション展については、当館の名品や特徴のある作品を年間通していつでも鑑賞いただけるようにするため、展示室内への常設コーナーの設置に加え、グランドギャラリーの大階段をはじめとする展示室外での展示についても具体的な検討を進めました。
- ・リニューアル後の展示室の名称について、来館者の立場から見たわかりやすさ、改修による展示スペースの新設、今後の展示室の活用方針等に照らして検討を行いました。その結果、鑑賞動線に沿って、「ギャラリー1」～「ギャラリー9」というシンプルな名称に変更することとしました。

(2) New Artist Picks

—

事業②

(1) コレクション

リニューアルオープン後におけるコレクションの収集・保存・活用のあり方について具体的な検討を進めました。

ア 収集

既定の収集方針に加え、これまでの収集活動の実績や今日の美術界の情勢等を踏まえ、収集の重点領域、継続性・主体性をもった収集活動のあり方等について検討を重ねました。

イ 保存

改修後のコレクション移転・収蔵庫への蔵置作業に向け、保存環境、スペース効率、使い勝手や安全性等を踏まえた蔵置計画の立案に着手しました。

ウ 活用

—

(2) 美術情報センター

リニューアルオープン後に向け、活動方針について具体的な検討を進めました。

- ・昨年度に作成した改修後の活動方針の素案にもとづき、図書資料の収集方針、室内のレイアウトや機能、組織体制等について詳細に検討を進め、内部的方針をまとめました。【提案書「事業目標3」参照】
- ・上記の一環として、リニューアル後の施設名称についても検討を重ね、開館当初の「美術図書室」に戻すこととしました。

- ・所蔵映像資料デジタル化については、本年度末までに約 300 点の映像番組のデジタル化をおこない、改修後の公開に向け準備を進めました。

(3) 調査・研究

—

事業③

(1) 教育プログラム：鑑賞教育

- ・令和3年度に立ち上げた「e 未来プロジェクト」の協議を引継ぎ、教育普及グループ内のチームを横断して、改修後の鑑賞教育および造形教育の方針、事業の枠組み、実施体制について、中期的見通しをもちながら検討を進めました。
- ・無料ゾーンとなる「はとばエリア」の活用のあり方について、建築家を交え、学芸グループとともに検討を重ねました。

(2) 教育プログラム：子どものアトリエ・市民のアトリエ

上記(1)に同じ

(3) 市民協働：ボランティア等

上記(1)に同じ

(4) 市民協働：コレクション・フレンズ

- ・改修後の「コレクション・フレンズ」の取組方針については、外部連携の基本方針に則り、令和4年度の継続的な検討を踏まえ、令和5年度の業務において提案します。

(5) 市民協働：各種社会貢献事業

上記(1)に同じ

3 施設の運営事業

施設運営①

(1) 来館者サービスの充実

- ・「多様性」の観点から見直しを進める来館者サービスについては、令和6年度からの本格運用に向け、外部の有識者を交えて基本方針を検討しました。
- ・第3期指定期間における提案の主要な観点である「多様性」の概念を「ユニバーサル」と「インクルージョン」とに大別し、その両立のために子ども・子育て層をターゲットとして絞り込みました。
- ・「多様性」に資する環境整備や人的対応だけでなく、展示・教育の各プログラムを検討・実施すること、展示室、アトリエ、美術図書室、無料空間など、全ての場所につき来館者アンケートを行うこと、その結果を各事業にフィードバックすることで、ユーザー視点に立った改善を図るという方針を策定しました。

(2) ショップやカフェの付加価値の向上

- ・昨年度策定した「ショップ・カフェの改修後の方針」に基づき、「はとばエリア(仮称)」の一角を占めるショップとカフェについて、指名型プロポーザル方式による委託事業者の選定をおこないました。
- ・各事業者とのリニューアルオープンに向けた諸調整をおこなうため、定期的に打ち合わせの機

会を設け、意見交換しました。

- ・昨年度策定した「ショップ・カフェの改修後の方針」に基づき、開かれた活動についての方針と当館組織について検討し、中期的見通しを持った単年度計画を立案しました。

施設運営②

(1) 適正な施設管理

- ・リニューアルオープン後を見据え、主として「はとばエリア」の空間構成と調度什器の設計を検討する「全体デザインプロジェクト」をグループ横断で立ち上げ、協議を重ねました。建築家やデザイナーと協働して、家具什器、動線・サイン計画等を協議し、什器約 100 種類、サイン約 300 点のデザイン・設計を行いました。[文化庁文化観光拠点計画]
- ・上記の設計にあたっては、インクルーシブ・ワークショップを実施し、さまざまな利用者のニーズを踏まえました。
- ・光熱水費について、改修により水道光熱設備が全面的に更新されるため、あらためてその経費を試算し増額の規模を想定しました。サーバー・PC のリプレースを実施するとともに、業務効率化のための DX 化を検討しました。
- ・開館から 35 年間の館の活動データ等をウェブサイト上で公開するため、館内グループ横断の「美術館の運営・活動記録アーカイブ化プロジェクト」で検討のうえ、年報など基礎データと市が保管している文書資料を整理し、公開に向けて編集作業をおこないました。
- ・リニューアルオープンについては、美術館事業への期待感を高めながら、開館 35 周年を迎えるべく、広報・事業の開始について、3つのステージ(①「令和5年3月リニューアルオープンのステージ」、②「令和6年2月全館始動のステージ」、③「令和7年度以降通常運営のステージ」)を設定しました。

(2) 経営基盤の強化

- ・改修後の法人協賛制度について、中期的見通しを持った単年度計画を立案しました。

(3) 人材強化

—

4 その他：政策協働

—

5 組織

—

6 留意事項

—

7 収支計画

—

4 経営に関する計画

◇政策目標『横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します』

(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>主会場としての当館の特性を活かすと同時に運営組織の構築・基盤整備をおこない、国際的ネットワークを構築しながら困難な状況下でも継続的に実施することで、当館の発信力を最大限に発揮するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレへの全館体制での取組みを強化します。 ・H28 に新設した国際グループが中心となり、過去3回の横浜トリエンナーレの企画運営に関わった経験と、国内外の国際展に関する知見を基に、横浜トリエンナーレの国内外への発信力をより高める企画運営体制を市に提案し、推進します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■改修後に向けた検討 1経営(1)横浜トリエンナーレ」(7ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●ヨコハマトリエンナーレ2023に向けた準備</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■グローバルな視点に立ち、国内外に発信することを目指し、主に以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月頃 タイトルおよびコンセプト発表 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/30 会期・会場・ADリリース ・9月AD(キャロル・インホワ・ルー) 来日 ・11月AD(リウ・ディン) 来日 ・12/20 会期変更リリース ・3月 AD2名揃って来日

(2) 海外との連携[重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>当館の発信力の強化に資する事業として、アジアの国々と重点的に連携するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回し、活動を強化します。新たに共同企画など深い協働性を通じた高度な質を目指します。 ・コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 ・H28 に新設した国際グループを中心に、全館体制で推進・強化します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■改修後に向けた検討 1経営(2)海外との連携」(4ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■コレクションを通じた海外機関との連携事業などによる当館発信力の強化を目指し、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出

	<p>・7月一次案提出、11月二次案提出、 1月最終案提出 (参照:3期提案書事業目標1・2)</p>	
--	---	--

(3) 広報

<p>[目指す成果/アウトカム] 発信力の強化に資する事業として、事業および施設の広報を充実させるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報・連携体制の充実・強化：①個別の展覧会や事業ごとの宣伝と全館広報の両立、②市民やメディアとの信頼と関係強化、③館として発信するパンフレットや刊行物発刊、④ソーシャルメディアの効果的な運用方法の開発を実施し、活動を強化します。 ・ マーケティングの強化：認知度および顧客満足度調査などを試行的に実施し、コンセプト及びターゲットの明確化の推進を、引き続き実施します。 ・ 首都圏に向けた広報に力を入れます。 <p>[成果についての振り返り] ・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 1経営(3)広報」(2-3ページ)・「■改修後に向けた検討 1経営(3)広報」(8ページ)参照</p>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ウェブ等で活動を発信 ●改修後の広報基本方針の策定 ●改修後のウェブサイト充実・公開 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■再開館時の露出件数や評価コメントに繋がるよう、発信力の強化を目指し、主に以下を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮拠点移転後から開始している休館中事業の発信継続 ・ 翌年度より開始する再開館にむけた発信準備 ■企画展・コレクション・教育普及などの発信力の強化を目指し、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月一次案提出、11月二次案提出、1月最終案提出 (参照:3期提案書事業目標4) ■利用者の利便性向上と再開館後の魅力発信の最大化を目指し、令和3年度からのマーケット調査を含む「ウェブサイトリニューアルプロジェクト」を踏まえ、令和6年度以降の本格的な 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実施【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度に続き休館中発信継続 (①note:18区アウトリーチレポート、職員インタビュー、今月の1点、18区ゆかりの作品紹介 ②Twitter/Facebook:横浜美術館クイズ、休館中日記、建築のヒミツ) ・ 昨年度に続き神奈川新聞連載継続(～R5.1終了) ■実施【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出 ■実施【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月ウェブサイト構築会社決定・コンテンツ戦略企画立案

	<p>公開に向け準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月ウェブサイト構築会社決定、コンテンツ戦略企画立案 ・ 3月サイト構成一次案決定 <p>【文化庁文化観光拠点計画：訪日客向けWEBサイト・VR/360度映像による展示体験】</p> <p>(参照：3期提案書事業目標5, 6)</p>	
--	---	--

(4) 外部との連携

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>営業力の強化に資する事業として、都市型美術館の特色を打ち出すため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市戦略との連携：創造都市、シティセールス、観光プロモーションと連携した事業展開を引き続き実施します。 ・ 専門性を活かしたネットワークの強化：①社会課題や子どもへの取組みについて財団内連携、②美術家、事業者、NPO、ボランティア、大学等との連携を引き続き実施します。 ・ 美術館の特色を生かしたオリジナリティの高い事業とするため、より高い質を重視した事業展開を目指します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 1経営(4)外部との連携」(3ページ)・「■改修後に向けた検討 1経営(4)外部との連携」(8ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●改修後の外部連携について、基本方針と当館組織について検討</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■専門館などの文化観光拠点との連携を通じた都市戦略への寄与を目指し、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月一次案提出、11月 二次案提出、1月最終案提出 <p>(参照：3期提案書事業目標5)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出

5 事業についての計画

◇政策目標『質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げます』

(1) 企画展

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、そして営業力の強化に資する事業として、展覧会基本方針等に立脚し、質の高い文化活動を実現するとともに、来館者の裾野を拡大するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく開催することを、引き続き実施します。 ・集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し、共催することを引き続き実施します。 ・コレクションをベースとした企画展の開催を引き続き実施します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■改修後に向けた検討 2事業 事業① (1) 企画展、事業② (1) コレクション展」(8-9ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●改修後の企画展準備</p> <p>●改修後の展示計画の検討</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□幅広い層への発信やコレクションの魅力発信などを旨とし、令和3年度の「新たな美術の価値創造につながる展覧会の企画検討プロジェクト」を踏まえ、主に以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展案検討会議 1回/年 <p>■上記の「プロジェクト」を踏まえ、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月一次案提出、11月 二次案提出、1月最終案提出 <p>(参照：3期提案書事業目標2)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□2回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 展覧会会議(2回)：R6-7の企画展候補案絞り込み完了 <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出

(2) New Artist Picks

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援するため、継続的に取組み、広報を強化して、一定の入場者数を確保します。また、質の向上に取組むと同時に、展覧会后5年間の作家の活動を把握し成果を確認することで、活動を強化します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 2事業 事業① (2) New Artist Picks」(3ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●新進アーティスト</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□1回/年【達成】</p>

<p>トを紹介するプログラムを開催</p> <p>●展覧会后5年間の作家の活動を把握</p>	<p>□1回/年</p>	<p>・11/14 New Artist Picks: Wall Project「浦川大志 掲示: 智能手机ヨリ横浜仮囲之図」@横浜美術館仮囲い(～5/31)</p> <p>□1回/年【達成】</p> <p>・8月 実施</p>
--	--------------	--

◇政策目標『魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します』

(1) コレクション

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>収集方針に基づき、作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させ、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承し、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集：①市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品収集提案、②現行の中期重点方針を見直し、現状に即した内容に改定して横浜市に提案、3か年ごとの収集計画を策定して収集を促進、③横浜トリエンナーレの機会に話題性のある現代美術作品の収集提言を、引き続き実施します。 ・保存：①作品の安全な保存、②作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所の整備を、引き続き実施します。 ・活用：①原則として年2～3回コレクション展開催（展示構成やテーマ展示などを工夫、人気の高い作品を展示する一方でなるべく多くを展示、特に新収蔵作品は迅速に展示公開、同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示、展示方法や展示室の環境整備と情報提供を工夫）、②コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 2事業 事業②(1)コレクション」(3-4ページ)・「■改修後に向けた検討 2事業 事業①(1)企画展、事業②(1)コレクション」(8-9ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●コレクションの形成に関する通常業務</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□市民に親しまれるリニューアルオープン記念美術品の購入などを見据えた、令和3年度の「コレクションの形成・保全あり方検討プロジェクト」を踏まえ、主に以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部検討委員会開催1回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□1回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/25 内部検討委員会@市庁舎 <p>【追加実績】1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月 市内企業寄付金による作品収集に関する候補作家等との調整

<p>●コレクションの保存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存等に関する通常業務 ・改修後の新収蔵庫への収蔵計画立案と準備 <p>●コレクションの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション国内展 ・コレクション画像撮影・公開 ・改修後のコレクションデータベースおよび作品解説 ・改修後のコレクション展方針の検討 	<p>□保管中の作品の点検、保管状況の確認 1 回/月</p> <p>■上記の「プロジェクト」を踏まえ、主に以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月一次案策定 <p>□1回/2年(令和3-4年度)</p> <p>■撮影・デジタル化・公開</p> <p>【文化庁文化観光拠点計画:美術資料の画像公開】</p> <p>□市民の財産であるコレクションを市民に還元することを目指し、令和3年度の「コレクションの魅力発信プロジェクト」を踏まえ、主に以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月 作品解説 250 点公開 <p>【文化庁文化観光拠点計画:多言語による美術作品情報提供】</p> <p>■上述の「新たな美術の価値創造につなげる展覧会の企画検討プロジェクト」を踏まえ、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月一次案提出、11月 二次案提出、1月最終案提出 <p>(参照：3期提案書事業目標2)</p>	<p>□1回/月【達成】</p> <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5 策定に向け立案中 <p>□1回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/23-6/5「横浜美術館所蔵 日本美術院の作家たち展」@郡山市立美術館 <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月 公開開始 <p>□実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月 作品解説 250 点公開 <p>【追加実績】 2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月 MM パークビルでの映像コレクション常設展示【HTA：MM パークビル】 ・3月 アート鑑賞番組（オンラインでのライブ配信）でのコレクション紹介 <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出
--	--	---

(2) 美術情報センター

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にたって、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な収集・整理・保管、市民、専門家、子どもなど様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することを、引き続き実施します。 ・横浜トリエンナーレの実施にむけて、関連する美術情報を集積することを、引き続き実施します。 ・開かれた専門性をめざし、他事例の調査に基づいた具体的な取組みを実施します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 2事業 事業②(2)美術情報センター」(4ページ)・「■改修後に向けた検討 2事業 事業②(2)美術情報センター」(9ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●業務で利用する図書資料の出納(開架図書及び閲覧エリアは休室) ●所蔵映像資料デジタル化・公開 ●蔵書のデータ更新・公開 ●改修後の活動方針と組織体制の検討 	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/>原則、業務利用出納1回/週</p> <p>■令和6年度公開にむけて主に以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月 公開する映像番組の基本方針策定 <p><input type="checkbox"/>原則、1回/日</p> <p>■市民や研究者の利用に供するため、令和3年度の「学びの場」づくりに向けて美術情報センターの活動・運営スキームを刷新するプロジェクト」を踏まえ、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月一次案提出、11月 二次案提出、1月最終案提出 <p>(参照：3期提案書事業目標3)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p><input type="checkbox"/>1回/週【達成】</p> <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月 <p><input type="checkbox"/>1回/日【達成】</p> <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出

(3) 調査・研究

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>あらゆる美術館活動の基礎としての調査・研究を実施するため、成果は事業に反映すると同時に、紀</p>

<p>要などにまとめて社会に還元し、活動を強化します。なお、専門性を広く市民のために役立てるため、専門的活動の効果的な開示を、海外も視野にいれて実施します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 2事業 事業②(3)調査・研究」(4-5ページ)参照</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>● 紀要の発行(論文3本以上,日英併記,ウェブサイトでも掲載) [再掲:日英併記]</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□ 1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□ 1回/年【達成】</p> <p>・ 3月 発行、ウェブサイトへの掲載</p>

◇政策目標『美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます』

(1) 教育プログラム：鑑賞教育 [重点的な取組み]

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>教育プログラムの強化に資する事業として、鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を果たすため、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元するという公立美術館の使命を果たすため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H24に組織新設し、鑑賞、創作体験、子ども対象を連動させた独自のエデュケーションプログラムを強化します。 ・ ①ワークショップ、鑑賞会などコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化、②学校連携による鑑賞プログラムを開発、③主にコレクション展のための鑑賞サポートツールの開発をおこない、活動を強化します。 ・ 視覚障がい者むけ鑑賞サポートツール開発により、活動を強化します。 ・ 展覧会鑑賞パートナーによるコレクション展ギャラリートーク等の実施を通じて、活動を強化します。なお、様々なプログラムの試行を踏まえ、横浜美術館の特徴を活かしたオリジナリティある定番プログラムの確立を目指します。 ・ 質を保ちつつ、市民ならではの視点を活かした個性あふれるボランティア・トークについて、外国人向けなど種類を拡大します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 2事業 事業③(1)(2)教育プログラム」(5ページ)・「■改修後に向けた検討 2事業 事業③(1)(2)教育プログラム」(9ページ)参照</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>● 仮拠点におけるワークショップ</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□ 12回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□ 21回/年【達成】</p> <p>◇ 若者支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/14 振り返りシンポジウム(オンライン) ・ 7/31 振り返りシンポジウム報告書発行 <p>◇ 教員向け</p>

<p>●改修後の鑑賞教育方針、事業の枠組み(アートギャラリー1での開かれた活動含む)、組織の検討</p>	<p>■参加者アンケート：試行</p> <p>■美術と人々をつなぎ、発信力の強化を目指して、令和3年度の「e未来プロジェクト」を踏まえ、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施</p> <p>・7月一次案提出、11月 二次案提出、1月最終案提出 (参照：3期提案書事業目標3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6/18 教員向け鑑賞会(オンライン) ・7/22 教員のための研修会(教育委員会) ・9/24 教員向け鑑賞会 ・3月 2021 教師向け鑑賞ガイドウェブダウンロード報告書発行 <p>◇一般向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/8 写真 ・11/19 絵画と能楽 ・1/21 絵画と能楽 ・2/18 丹下建築 <p>◇一般向け：ボランティアによる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/22 「アートで街歩き」2コース(オンライン) ・6/25 「アートで街歩き」1コース(オンライン) ・7/2,6,9 「アートで街歩き」各1コース(オンライン) ・11/30 アートウォーク ・12/3,7 アートウォーク ・12/10,17 物語 ・1月 建築 Twitter 発信第2弾 <p>■実施【達成】</p> <p>・5/14,7/22,10/8,11/19,30,12/3,7,10,17,1/21,2/18 実施</p> <p>■実施【達成】</p> <p>・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出</p>
--	--	--

(2) 教育プログラム：子どものアトリエ・市民のアトリエ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>■子どものアトリエ</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、子どもの自立を支援するため、</p> <p>・下記を引き続き実施します。なお、鑑賞教育の活動が軌道にのってきた状況を鑑み、子どものアト</p>
--

リエは、創造支援活動中心とし、専門性をより深めます。

- ・学校のためのプログラム：学校連携、鑑賞を組み込み、展覧会の内容や鑑賞ポイントを教師に伝えるレクチャーの開催、教師向けのワークショップ開催
- ・個人を対象にしたプログラム：造形活動、鑑賞活動
- ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等との連携
- ・外部連携による事業展開を実施します。

■市民のアトリエ

発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援するため、

- ・下記の実施を強化します。なお、著名アーティストなどとの外部連携による新しい分野の講座を開始します。
- ・市民の創作活動を支援する事業の実施
- ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等と連携

[成果についての振り返り]

・「3 基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 2 事業 事業③ (1) (2) 教育プログラム」(5 ページ)・「■改修後に向けた検討 2 事業 事業③ (1) (2) 教育プログラム」(9 ページ)参照

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●仮拠点におけるワークショップ</p>	<p>□24 回/年</p>	<p>□26 回/年【達成】</p> <p>◇一般向け（子ども・親子対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/21 木の車 2 コース ・6/11 粘土でお絵かき 2 コース ・7/2 カラービニール 2 コース ・10/1 たき美学 ・10/29 日本画体験 ・2/25 おおきなお面 <p>◇一般向け（12 歳以上対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/4 着物 ・8/6,27 新聞紙粘土 2 回 ・9/24 村上早トーク ・10/1 焚美学 ・11/15 共存(連携:横浜国立大学) ・12/3 糸紡ぎ 2 コース ・1/21 浦川大志公開制作&トーク (会場&オンライン) ・2/4 川内理香子 WS <p>◇教師向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/14 教師 WS 2 コース(オンライン) <p>◇オンラインコンテンツ配信</p>

<p>●改修後の子ども向けおよび大人向け造形教育方針、事業の枠組み、組織の検討</p>	<p>■参加者アンケート：試行</p> <p>■美術と人々をつなぎ、発信力の強化を目指して、令和3年度の「e未来プロジェクト」と「オンライン発信!プロジェクト」を踏まえ、中期的見通しを持った単年度計画立案実施</p> <p>・7月一次案提出、11月二次案提出、1月最終案提出 (参照：3期提案書事業目標3)</p>	<p>・じっくりみる この一点 3本</p> <p>・どんな技法? 2本</p> <p>■実施【達成】</p> <p>・オンラインコンテンツ除く全講座で実施</p> <p>■実施【達成】</p> <p>・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出</p>
---	---	--

(3) 市民協働：ボランティア等

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業、多彩な市民力を取り込む美術館活動の強化（コレクションに関する教育普及）、ビジターサービス機能への市民の力の活用として、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエ運営ボランティア、美術情報センターボランティア育成を、引き続き実施します。 ・コレクション展でのギャラリートークや鑑賞会における展覧会鑑賞パートナーの育成を強化します。 ・ビジターサービスにおける市民およびNPO 法人との協働を強化します。 ・市民との協働については、外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進を検討します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 2事業 事業③(3) 市民協働：ボランティア等」(5-6ページ)参照</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●鑑賞ボランティア活動(ビジターサービスボランティア活動含む)</p>	<p>[達成指標]-</p> <p>□30人/年</p> <p>■参加者アンケート：試行</p> <p>【文化庁文化観光拠点計画:コレクション</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□47人/年【達成】</p> <p>【追加実績】1件</p> <p>5/28NTT テクノクロスボランティア</p> <p>■実施【達成】</p> <p>・2/22 実施</p>

	ンに関するレクチャー】	
--	-------------	--

(4) 市民協働：コレクション・フレンズ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、美術館活動を支える市民のプラットフォームづくりを実現するため、収蔵作品の保全、展示のための資金をサポートする市民を募る「横浜美術館コレクション・フレンズ」を継続発展させ、強化します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■改修後に向けた検討 2事業 事業③ (4) 市民協働：コレクション・フレンズ」(9-10ページ)参照</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●改修後のコレクション・フレンズの再構築</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■市民とつながり、美術と人々をつなぐことを目指し、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施</p> <p>・7月一次案提出、11月 二次案提出、1月最終案提出</p> <p>(参照：3期提案書事業目標3および5)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■実施【達成】</p> <p>・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出</p>

(5) 市民協働：各種社会貢献事業

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、各種社会貢献事業を実施し、高齢者など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与するため、</p> <p>・横浜市、学校、関連機関、NPO 法人、市民との協働を充実させ、強化します。</p> <p>・美術館におけるエデュケーション事業の「美術館アクセス・鑑賞サポート事業」「学校教育連携事業」「環境啓発事業」を実施し、強化します。</p> <p>・障がい者向け、学校向け、環境等の講座については、「教育プログラム」として実施し、「市民協働：各種社会貢献事業」においては、美術館に来館できない方に向けたアウトリーチを強化するとともに、美術に関わる人材を育成する人材育成事業を中心におこないます。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・「3基本方針(2)令和4年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 2事業 事業③ (5) 市民協働：各種社会貢献事業 (アウトリーチ)」(6-7ページ)参照</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●アウトリーチ</p> <p>・福祉施設、病院等、高齢者施設、その他</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□12回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□21回/年【達成】</p> <p>◇近隣企業</p> <p>・5/25 野村総研 WS【HTA】</p> <p>・7/22 オープンイノベーション促進コミュニティEDEN WS【HTA】</p>

<p>・ 18 区</p>	<p>□ 9 回/年 (令和 3 年度横浜 [出前] 美術館実 行委員会を踏まえ実施)</p> <p>■ 参加者アンケート：施行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8/31MM パークビル作品投影トーク 【HTA】 ・ 10/12 野村総研対話型鑑賞【HTA】 ・ 11/19 横浜未来機構 WS (京セラみなと みらいリサーチセンター) ・ 12/13 野村総研 WS【HTA】 ・ 1 月 デコ車キット送付 (NTT テクノク ロス)【HTA】 ・ 1/25 野村総研トーク【HTA】 ・ 2/22MM パークビル作品投影トーク 【HTA】 <p>◇ 近隣大学・文化施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/4, 25 共存 (連携：横浜国立大学) ・ 1/28 ヨコトリ@横浜市中心図書館 <p>◇ 横浜市芸術文化教育プラットフォーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9/20-22 プラットフォーム (笠間小： 三ツ山一志) ・ 11/24-25 プラットフォーム (共進 中：菊地敦己) ・ 1/27 プラットフォーム (領家中：松 田修) ・ 2/17 プラットフォーム (篠原中：千 葉大二郎) <p>◇ 福祉施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3/16 若者支援@よこはま南部ユース プラザ・ユースサポート・ユースワー クふじさわ ・ 3/27 横浜市西部地域療育センター <p>□ 9 回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/16 都筑区 ・ 6/18 旭区 ・ 6/25 南区 ・ 7/23 港南区 ・ 8/4 保土ヶ谷区 ・ 10/22 神奈川区 ・ 10/29 港北区 ・ 11/12 泉区 ・ 1/28 中区 <p>■ 実施【達成】</p>
---------------	--	--

		• 4/16, 5/25, 6/18, 25, 7/23, 8/4, 31, 10/12, 22, 29, 11/12, 19, 12/13, 1/25, 28, 2/22 実施
--	--	---

6 施設の運営に関する計画

◇政策目標『お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います』

(1) 来館者サービスの充実

<p>[取組内容]</p> <p>●改修後の来館者サービスの基本方針および当館組織について検討</p>	<p>【指標】</p> <p>■来館者の満足度の向上とご意見を適切に事業に生かすことを目指し、令和4年度から始動する「来館者サービス事業計画」作成プロジェクト」を中心に、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施</p> <p>・7月一次案提出、11月 二次案提出、1月最終案提出</p> <p>(参照：3期提案書事業目標4および6)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■実施【達成】</p> <p>・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出</p>
---	--	--

(2) ショップやカフェの付加価値の向上

<p>[取組内容]</p> <p>●ショップでのオンラインでの販売</p> <p>●改修後のショップおよびカフェでの開かれた活動についての方針と当館組織の検討</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■実施</p> <p>■令和3年度からの「ショップ・カフェリニューアルプロジェクト」を踏まえ、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施【文化庁文化観光拠点計画：カフェスペース活用事業・文化資源オリジナルグッズ販売事業】</p> <p>・7月一次案提出、11月 二次案提出、1月最終案提出</p> <p>(参照：3期提案書事業目標5および6)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■実施【達成】</p> <p>■実施【達成】</p> <p>・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出</p>
---	---	---

◇政策目標『財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します』

(1) 適正な施設管理

<p>[取組内容]-</p> <p>●大規模改修</p>	<p>[達成指標]-</p> <p>□原則、市との改修工事定例会1回/月</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□実施【達成】</p> <p>【追加実績】2件</p> <p>・6/10 仮囲いのラッピング（鈴木理策氏の写真）</p>
------------------------------	--	--

<p>●改修に伴う作品・資料・事務所管理業務：改修に伴う作品・資料の民間倉庫における管理業務、改修に伴うプロット48管理業務</p> <p>●改修後の開館30周年データ集ウェブ公開に向けた準備</p> <p>●リニューアルオープン準備</p> <p>●第三期指定管理事業計画書準備</p>	<p>■令和3年度からの「全体デザインプロジェクト」を通じて、改修後の美術館理念を什器などを通じて体现</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 建築家決定 ・8月 グラフィックデザイナー決定 <p>【文化庁文化観光拠点計画：バリアフリー向上事業・案内サイン改修事業】</p> <p>(参照：3期提案書事業目標6)</p> <p>□原則、プロット48運用定例1回/月</p> <p>■令和3年度の「美術館の運営・活動記録アーカイブ化プロジェクト」を踏まえ、令和6年度以降の公開にむけて主に以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月 調査に基づき年表や各論を含む和文完成 <p>■令和4年度から始動する「リニューアルオープンプロジェクト」を中心に、事業実施にむけて主に以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月 各年度ステージ設定 <p>■提案書に基づき、中期的見通しを持った単年度計画立案 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月一次案提出、11月 二次案提出、1月最終案提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・12/21 仮囲いプロジェクトの実施 (みなといろ) <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 建築家・グラフィックデザイナー決定 <p>□実施【達成】</p> <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月 和文一部完成 <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出 <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出
--	---	---

(2) 経営基盤の強化

<p>[取組内容]</p> <p>●改修後の法人協</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■中期的見通しを持った単年度計画</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■実施【達成】</p>
-------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------

賛制度の提案	立案 実施 ・7月一次案提出、11月 二次案提出、1月最終案提出 (参照：3期提案書事業目標3および5)	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出
--------	--	---------------------------

(3) 人材強化

[取組内容] ●学芸員、エデュケーター育成	[達成指標] ■学芸員、エデュケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用	[実施内容と達成状況] ■実施【達成】
--------------------------	--	------------------------

7 その他：政策協働

◇政策目標『政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します』

[取組内容] ●市の政策と事業の相互連携 ●外部意見の取入れ ・外部有識者を交えた教育普及企画運営会議 ●年報発行	[達成指標] <input type="checkbox"/> 原則、モニタリング1回/月 <input type="checkbox"/> 1回/年 <input type="checkbox"/> 1回/年	[実施内容と達成状況] <input type="checkbox"/> 実施【達成】 ・4/26, 7/19, 1/17 政策経営協議会 ・8/9 外部評価委員会 ・8/9, 11/25, 1/21, 2/4 外部評価委員視察対応 <input type="checkbox"/> 1回/年【達成】 ・9/7「新学習指導要領を学ぶ」 <input type="checkbox"/> 1回/年【達成】 ・1/27 発行
---	--	--

8 組織

[取組内容] 過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	[達成指標] <input type="checkbox"/> 計 45人 ・館長 1人 ・副館長 1人 ・グループ長 5人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員 29人	[実施内容と達成状況] <input type="checkbox"/> 計 44人【未達成】 ・館長 1人 ・副館長 1人 ・グループ長 5人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員 28人
---	---	---

9 留意事項

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
--------	--------	-------------

<ul style="list-style-type: none"> ●保険及び損害賠償の取扱い ●法令の遵守と個人情報保護 ●情報公開への積極的取組 ●市及び関係機関等との連絡調整 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> 1) 許認可及び届出等 2) 施設の目的外使用 3) 人権の尊重 4) 近隣対策 5) 重要書類の管理 6) 行政機関が策定する基準等の遵守 7) 法令の制定及び改正への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ■業務の基準に基づいた適正な取扱い ■コンプライアンス窓口を設置し対応 <input type="checkbox"/>個人情報保護研修 1回/年 ■財団事務局に情報公開窓口を設置し対応 ■横浜市や関連機関との連絡緊密化 ■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施【達成】 ■実施【達成】 <input type="checkbox"/>1回/年【達成】 ・10月 ■実施【達成】 ■実施【達成】 ■実施【達成】
--	--	--

令和4年度 「横浜美術館」 収支報告書

収入の部

(税込、単価：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C)-(D)	説明
指定管理料	877,734,000		877,734,000	877,734,000	0	横浜市より
文化施設運営事業	646,610,000		646,610,000	646,610,000	0	
横浜美術館大規模改修事業（作品等移転費）	231,124,000		231,124,000	231,124,000	0	
利用料金収入	300,000		300,000	528,000	△ 228,000	図版使用料
自主事業収入（指定管理料充当の自主事業）	0		0	0	0	
自主事業収入	1,044,000		1,044,000	2,060,324	△ 1,016,324	造形講座料、アウトリーチ収入、コレクション監修費等
雑入	47,698,000	0	47,698,000	53,104,160	△ 5,406,160	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他（ショップ他）	1,200,000		1,200,000	3,612,091	△ 2,412,091	オンラインショップ売上収入増、館内施設貸出等
その他（協賛金、補助金、寄付金）	46,498,000		46,498,000	49,492,069	△ 2,994,069	企業協賛金増、寄付金、文化庁補助金等
収入合計	926,776,000	0	926,776,000	933,426,484	△ 6,650,484	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (A)-(D)	説明
人件費	334,308,000	0	334,308,000	311,834,686	22,473,314	
給与・賃金	271,793,000		271,793,000	252,547,779	19,245,221	職員、派遣職員人件費、職員配置調整による減
社会保険料	42,830,000		42,830,000	40,556,238	2,273,762	
通勤手当	5,939,000		5,939,000	6,811,442	△ 872,442	
健康診断費	0		0	308,969	△ 308,969	
勤労者福祉共済掛金	0		0	243,500	△ 243,500	
退職給付引当金繰入額	13,746,000		13,746,000	11,366,758	2,379,242	職員配置調整による減
事務費	20,522,000	0	20,522,000	16,964,892	3,557,108	
旅費	438,000		438,000	177,840	260,160	出張費
消耗品費	1,404,000		1,404,000	1,030,601	373,399	新聞、日常消耗品
会議場い費	0		0	0	0	
印刷製本費	116,000		116,000	59,961	56,039	名刺
通信費	1,630,000		1,630,000	1,587,450	42,550	郵送料、電話料金等
使用料及び賃借料	1,780,000	0	1,780,000	1,580,119	199,881	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	1,780,000		1,780,000	1,580,119	199,881	コピー機レンタル料等
備品購入費	9,000,000		9,000,000	7,677,780	1,322,220	備品購入、管理費等、スケジュール変更による予約システム経費減
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	0		0	0	0	
職員等研修費	50,000		50,000	99,064	△ 49,064	研修、講習費等
振込手数料	433,000		433,000	262,701	170,299	
リース料	3,000,000		3,000,000	1,998,000	1,002,000	パソコンリース料、入札に伴う経費減
手数料	1,628,000		1,628,000	1,445,936	182,064	産廃処理料金等
地域協力費	1,043,000		1,043,000	1,045,440	△ 2,440	各種年会費
事業費	148,440,000	0	148,440,000	177,632,295	△ 29,192,295	
自主事業費	148,440,000		148,440,000	177,632,295	△ 29,192,295	アウトリーチ実施費、作品図書保全費、ウェブサイト運営費、開館準備費等
移転関係費	159,756,000		159,756,000	154,558,295	5,197,705	美術館大規模改修に伴う経費（事務所等移転、作品・図書移転等）
移転関係費（仮拠点管理費/賃料含む）	111,619,000		111,619,000	88,072,197	23,546,803	美術館大規模改修に伴う経費（仮拠点整備・管理費等）、仕様見直しに伴う管理会社委託経費減
管理費（仮拠点管理費/運営費分）	14,496,000	0	14,496,000	7,964,822	6,531,178	
光熱水費	0		0	0	0	
電気料金	0		0	0	0	
ガス料金	0		0	0	0	
水道料金	0		0	0	0	
清掃費	0		0	0	0	
修繕費	200,000		200,000	0	200,000	
機械整備費	0		0	0	0	
設備保全費	14,296,000	0	14,296,000	7,964,822	6,331,178	
空調衛生設備保守	0		0	0	0	
消防設備保守	100,000		100,000	0	100,000	
電気設備保守	0		0	0	0	
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	14,196,000		14,196,000	7,964,822	6,231,178	ネットワークセキュリティ費、設備保守委託費等、導入方法・仕様変更によるアプリケーション・ネットワーク保守委託経費減
共益費	0		0	0	0	
公租公課	41,123,000	0	41,123,000	40,965,182	157,818	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	41,067,000		41,067,000	40,919,922	147,078	
印紙税	40,000		40,000	14,600	25,400	
その他（固定資産税）	16,000		16,000	30,660	△ 14,660	
事務経費	96,512,000	0	96,512,000	95,591,335	920,665	
本部分	79,681,000		79,681,000	79,681,000	0	事務局積算による数値
当該施設分	16,831,000		16,831,000	15,910,335	920,665	事務等運営経費
二一ス対応費	0		0	0	0	
支出合計	926,776,000	0	926,776,000	893,583,704	33,192,296	
差引	0	0	0	39,842,780	△ 39,842,780	